



わにっこり

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子

和邇小だより 令和6年 1月号

児童数398名 文責 澤村幸夫



あなたの心はどんな形？

謹んで新年のお慶びを申し上げます。今年も、地域の皆様、保護者の皆様の温かなご支援とご協力をいただき、一人ひとりの子どもたちが健やかに育ってくれるよう努めて参りたいと思います。

元日から、心を痛める出来事が起こりました。石川県能登半島で、大きな地震が発生し、日を追うごとに被害の深刻さや避難されている方の様子が報道されています。楽しい正月を迎える時期だけに、私たち人間ではどうすることもできない自然の驚異を目の当たりにし、改めて「今ある日常は当たり前ではない」ことをかみしめ、「一人ひとりができることは何か」を考える冬休みとなりました。前号の学校だより「わにっこり」冬休み号で、次のフレーズを紹介しました。

「心は誰にも見えないけれど、「こころづかい」は見える。「思い」は見えないけれど、「思いやり」は誰にでも見える。その気持ちをカタチに」。これは、2011年に発生した東日本大震災以降、ほとんど毎日、テレビのACジャパンのCMで流れていたもので、調べてみると、詩人で作詞家の宮澤章二さんが作った「行為の意味」という詩の抜粋です。

宮澤 章二

あなたの心はどんな形ですか と
人に聞かれても答えようがない
自分にも 他人にも心は見えない
けれどほんとうにみえないのであろうか

確かに心は誰にも見えないけれど
心づかいは見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の思いは見えないけれど
思いやりは見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから

あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき
「心」も「思い」も、はじめて美しく生きる
それは 人が人として生きることだ



令和6年1月4日撮影

この言葉はとても重みのある素敵な言葉だと思います。当時（いや今も）被害に遭われ、大きな悲しみを抱え、厳しい避難所生活を強いられている多くの方々への「思い」を、私たち一人ひとりがしっかり胸に刻むとともに、その「思い」を形（行動）に表していくことが大切なのだと教えてくれます。今回の能登半島の地震も同様です。

心をかたちに、思いを形にすることは、けっして簡単なことではありません。しかし、カタチにすることで、人に対する積極的な行為が生まれるのだと思います。

新年を迎え、私たちは何を「思い」、何ができるのでしょうか。できることなら、人の痛みが分かる、人のやさしさや温かさが伝わる積極的な取り組みをしたいものです。



和邇小学校の
ホームページ

和邇小学校のホームページをご覧ください。子どもたちの様子を掲載しています。

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校のホームページから「学校便り」をクリックしてください。

植松努さん講演会より



創立150周年記念特別企画として、令和5年11月24日に、下町ロケットの小説のモデルになった「植松努」さんに、北海道からはるばる来校いただき、全校の子どもたちに話をしていただきました。植松さんが有名になったきっかけのひとつが、今から10年前、2014年「TEDxSapporo2014」での世界を感動させたスピーチです。私自身も、何かに迷ったり落ち込んだりした時に、何度もこのスピーチをみて勇気をもらっています。

植松さんが、自身のエピソードとして語られているものに、次のようなことがあります。植松さんが、ボランティアで児童養護施設を訪れた時に、幼児虐待問題に心を痛み、お金では解決できない問題に直面します。植松さんは、子どもが絶望することなく夢をチャレンジするためには、みんなが一度は憧れる宇宙にチャレンジするのがいいのではと考え、本物のロケ



ットを作る体験学習と、講演活動に力を注がれました。「どうせ無理」という言葉を跳ね返し、夢を実現させれば、いじめも戦争も児童虐待もなくなるかもしれない、その強い思いを、自身の体験談からやさしく語られるメッセージに、多くの人が引き込まれます。

植松さんの言葉から、そのいくつかを紹介します。

- ① 「どうせ無理という言葉をやりたい」：失敗しないため、やらないための言い訳として使う言葉。この言葉を使うと成長できない。また、周りで頑張っている人の夢や希望や努力をこの言葉で潰さないでほしい。
- ② 「思うは招く」：自分で願い続ければ、そのとおりになるという言葉。願いを強く思い続けることで、夢は必ずかなう。
- ③ 「ちがうはすてき」：奇跡を起こすキーワード：ちがうに出会ったときに、おかしいとか、へんとか考えずに、「すてき！」と言っておく。他の人とちょっとちがう自分に向かって「すてき！」と言ってほしい。すばらしい個性（ちがい）なので、どこかで誰かがあなたを必要としている。
- ④ 「失敗は成功よりも重要」：誰もやらなかったことをやると必ず失敗する。失敗はデータである。失敗から人は次を考えるようになる。失敗を恐れて、何もしなければ、成功もまた生まれない。
- ⑤ 「人の出会いには意味がある」：人は足りないから助け合う、足りない自分をダメだと思わず、助けを求める。人とつながる。今日、新しい出会いがあれば、出会う前とは違う時間が始まっている。人の人生はいくらでも変わる。たとえ今がどんなにダメでも、どんなにつらくても、絶望しなくていい。勇気を出して、新しい誰かと出会うチャンスを見つけていく。それだけで、人生はどんどん変わっていく。



植松努さんまとめ

紙面配布のみ表示



期間限定 1/9~1/31

その他、多くの説得力ある言葉を私たちに与えていただきました。当日の講演会の様子を短い動画にまとめました。60分のお話でしたので、5分では、うまくまとまりませんが、左の QR コードから、ぜひご覧ください。

2学期ダイジェスト

紙面配布のみ表示



期間限定 1/9~1/31

2学期の学校行事をダイジェスト版で動画にまとめました。左の QR コードからご覧ください。

ウェルビーイング シリーズ 子どものWell-being 第10弾 「非認知能力」



学校のギンガハゼ
本文との関連はありません。

Well-being とは、心身ともに満たされた状態を表すもので、「幸福」とも訳されず。現在、あらゆる分野で注目を浴びていて、さまざまな調査や研究がなされています。子どもたちが、自分が幸せだと感じると、学びのパフォーマンスが向上し、学級や学校に良い影響をもたらすことになります。当然、学力も向上し、意欲向上とともに生活が安定します。

では、いったいどうすれば、「子ども自身が幸せだと感じるか」ということになりませんが、シリーズ第10弾は、「非認知能力」を取り上げたいと思います。

早い段階から通える幼児教室、英語教室やピアノ教室、その他さまざまな習い事が世の中にはありますが、親ならどれを習わせようか、それとも習い事はなしでいいか、といろいろ悩みます。また、小学校入学までに読み書きや計算はどれくらいできていた方がいいのかなど、気になることも多いと思います。これまでからこのシリーズで伝えていっているとおり、AIの普及とともに脳科学の研究が大きく進展し、今まで解明されていなかったことが根拠をもって明らかになりました。

小学校入学までに読み書きや計算を「人より早くできるようにさせる」ことには、大きな意義はないようです。それよりも、乳幼児期にこそ身につけておくべき、子どもの育ちやその後の人生に大きな影響を与える能力があります。

それは共感力、好奇心、集中力、忍耐力など、感情や心の働きに関する能力です。これを「非認知能力」といいます。この目に見えにくい能力が、成長の基盤となっていることが解明されて、教育界だけでなく、経済界や政界など広く社会で注目されるようになりました。

共感力が育って、人の気持ちを汲み取りながら他者と関わっていかうとすると、お友達がやっていることがどうしておもしろいのだろう、と好奇心が沸き、「自分もやりたい」となります。夢中になって楽しく遊ぶうちに集中することを覚えます。遊びの中では、他者との関わりの中で自律・自制心が養われ、コミュニケーション能力も育ちます。つまり、共感力を起点に連鎖的に広がっていくことがわかります。では、どうやって共感力は育てられるのでしょうか。

一番身近な人と体をくっつけて、その人のそばにいれば安心できるという経験が何より大事であると結論づけています。愛着形成とも呼ばれる深い関係性が、お父さんやお母さん、近くの人との間に育っていけば、共感力は自然と育ってきます。赤ちゃんを「かわいい」と抱き上げる、泣いていたなら「さみしいのかな」と抱っこでなだめるというように、触れ合って、大人も共感性をもって愛情を伝えるようにします。「抱きぐせがつく」と心配する必要はありません。

読み書きや計算など、テストの点数や到達度を数値で表せるものは「認知能力」です。この能力自体は小学校入学以降、いつでも伸ばせることができます。むしろ、乳幼児期に「非認知能力」を十分に育てることこそが、その後の「認知能力」を確実に根付かせ、その子の基本的な強さになるのです。幼稚園や保育園の現場では、これまでからも「非認知能力」の重要性に鑑み、育てる工夫がなされてきました。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を焦点化し実践されています。しかしながら、見えにくい、測れないものであることから、客観的な評価が難しく、注目しにくい側面がありました。親に対しては、出来るようになったこと、目に見えることを伝える傾向がありました。

「非認知能力」が育った人は、その後の勉強や仕事、社会生活に必要な能力を備えています。また、「非認知能力」は「認知能力」の習得にも影響を与えることが証明されてきました。そのためには、自分のペースで心地よくいられる経験を積み、周囲に肯定的に受け止められること、自己肯定感が高まる経験が重要です。やがて安心して外の世界に関心を広げていくようになり、信頼している大人が望むことに応えようという気持ちが出てきます。そうやって、豊かな人間関係を築きながら、幸せな人生を送ることができます。小学校生活でもけっして遅くはありません。「非認知能力」に注目していきたいと思います。



学校のエンゼルフィッシュ
本文との関連はありません。